

令和5年度 あいさつ

—小日向台町小学校の教育から子供の確かな成長と地域文化の創造を—

校長 溝畑 直樹

本校は、明治37年4月、東京市小石川第二尋常小学校として現在の地に開校し、今年で119年目を迎えます。明治41年に、より親しみやすくわかりやすい命名をすることで現在の校名となりました。校歌の作詞者は、「朧(おぼろ)月夜」、「故郷」の高野辰之さんです。詩人のサトウハチロー氏の母校でもあります。今年度は110名の新1年生を迎え、全校児童591名、21学級(しいの木学級を含む)でスタートです。

【個の価値観を作り上げる学校】

成熟社会を迎えようとしている日本は、人口減、高齢化がますます顕著となり、劇的な社会の発展、成長は今後期待できないのではないかとされています。かつて高度経済成長の中で生産性、効率性を高めるために日本人に求められた能力は、「画一性」でした。しかしこれらは、今やAIやロボットの役割となっています。これから日本が真の豊かさを求めて質的な変容を遂げるため、日本人に必要とされる資質は、一人一人の多様性です。多様性とは個性であり、それは個々の感覚に基づく生き方、つまり「価値観」とも言えます。20年後の社会では、「個の価値観が新たな未来を創造する」といっても過言ではないと考えます。

本校が目指すものは一人一人の子供の自立です。学習において個別最適な学び、協働的な学びを実現することで、子供たちが最終的に「学ぶ意味は何なのか」ということを、先生や仲間たちと一緒に考えている、そんな教室を私たちは目指したい。「自立し意思決定できる」子供が、自立した教師の力を借りながら創り上げていくものが「令和の日本型学校教育」です。そのための自らの判断基準(価値観)を創り上げていく教育を小日向台町小では大切にします。

【未来を創造する学校】

学校は、地域にとって未来の象徴です。この小日向台町小には明治37年開校以来、119年にわたり地域と共に歩み続けた歴史がある。明るく心優しい子供たちがいる。父母と先生の会、地域学校協働本部をはじめとした、学校を応援し支えてくださる多くの人々がいる。そして、常に子供たちと真正面から向き合い、教育に熱い思いをもつ素晴らしい教職員がいる。それを当たり前のものであるのではなく、この環境からできる『Kobidaiモデルの教育』を子供たちのために実践し続ける学校でありたい。

[Kobidaiモデルの教育]

- 【授業革新】…「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」を実現するため、目的を明確にした質の高い授業を展開し、子供たち個々の揺るぎない価値観を育む。
- 【地域に貢献する学校】…学校が中心となって、父母と先生の会、地域学校協働本部を核とした地域コミュニティを創造し、地域社会の持続的発展に貢献する。

教職員の総力を挙げて、子供たちを自立に導くべく、全力で教育活動を進めてまいります。119年目を迎えた小日向台町小学校にどうぞご期待ください。